

令和7年度(2025年度)健康福祉に関する意識調査の実施結果について

1 目的

健康福祉施策等に係る区民等の実態とニーズを把握し、今後の事業の見直し・改善、目標の達成度を測る指標として活用するとともに、中野区地域福祉計画等の検討に資することを目的とする。

2 調査の概要

調査名	調査対象者	調査標本数	有効回収数 (回収率)
健康福祉に関する意識調査	18歳以上の区民	3,000人	1,090人 (36.3%)

3 調査期間

令和7年9月19日～10月10日

4 調査方法

郵送による配付、郵便回収またはウェブ回答

5 調査結果

<前回調査結果(令和4年度)と比較し、変化が大きかった項目>

- (1)参加している地域活動については、50歳代で「参加している」が73.9%と9.5ポイント減少している。
- (2)近所とのつきあいの程度については、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」が80歳代以上で24.5%と10.7ポイント増加している。また、「つきあいがほとんどない」が30歳代で39.4%と9.3ポイント増加している一方で、40歳代で17.1%と9.6ポイント減少している。
- (3)近隣同士の日常的な声かけなどの見守り・支えあい活動の実施状況については、「継続的に活動している」が、全体で13.2%と7.7ポイント増加している。
- (4)適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」と「気をつけて実践している」を合わせた<実践している>が20歳代以下で46.2%と12.9ポイント減少している。
- (5)地域の救急医療体制については、「整っているとは思わない」が、全体で8.6%と10.4ポイント減少している。
- (6)食中毒に関する認識については、「関心があり、食中毒について十分に理解している」と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」を合わせた<理解している>が65.3%と8.9ポイント増加している。特に、50歳代で73.9%と17.8ポイント増加している。
- (7)ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が67.2%と12.3ポイント増加している。特に、50歳代で69.4%と21.6ポイント増加している。